

○車座懇談会 参加者からの意見とりまとめ (R6.11)

意見	今後の対応、回答	担当課
○広報紙について		
・広報紙の紙媒体は今後も続けていくか。自治会長としての負担も軽減されるのでは。	ホームページはもちろんですが、「マチイロ」というアプリを活用して電子的に閲覧することもできます。一方で、一定数、紙媒体を必要としている方もみえますので、紙媒体をなくすことに関しては慎重に検討していく必要があります。	総務課
・町から発行される広報紙や議員だより、社協や民生員などを含めて冊子の開き方が右開きであったり左開きであったりする。統一できないか。	現時点で同様の問い合わせはございませんが、読みやすさという点において関係部署とも協議してまいります。	総務課
・他市町村の広報紙ですべてのページがカラーであるところがある。御嵩町もそれはできないか。	紙媒体は、費用の面で表紙と裏表紙を除いた部分が白黒となっております。ホームページや「マチイロ」アプリではすべてのページをカラーでご覧いただけますのでご理解ください。	総務課
・広報紙の記載内容は毎年同じではないか。最後まで読みたいと思ってもらえるような工夫はできないか。	ご指摘のとおり行事の予定など毎年恒例のものは同じ内容になっている部分がございますが、今後とも読み手の気持ちを理解した上で作成するよう努めます。	総務課
○財政について		
・何をすることもお金がかかる。町として歳入を増やす取組はあるか。	特産品振興・商品開発支援補助金を活用し、新たな商品開発を支援することで、事業拡大や地域経済の活性化を図るほか、みたけファンクラブを活用した誘客、高校生年代までの医療費無償化などにより、移住定住促進を図ります。また、事業の執行に当たっては、有利な財源確保に努めます。	総務課
○専門部署の創設について		
・昔は企業誘致推進室というものが役場の中にあった記憶がある。人口減少対策としては、企業の誘致も1つの方法。企業が増えればそこで働く人も増える。財源も確保できる。専門部署を創設する考えはないか。	現時点で専門部署の創設は検討しておりませんが、企業誘致は税収増や雇用創出の観点から非常に重要な施策と考えておりますので、積極的に取り組んでまいります。	企画課
・同じ人口規模感である八百津町は家がどんどん建っている。御嵩町との違いは何か。移住定住に係る専門部署を創設してはどうか。	御嵩町においても新築住宅の需要は大きく、街中を中心に建築されております。一方で空き家等の中古住宅の活用も既存ストックの活かし方として有効なため、移住定住の施策に力を入れてまいります。他業務との兼ね合いから現時点で専門部署の創設は検討しておりませんが、近隣市町村の取組も参考にしながら、積極的に取り組んでまいります。	企画課
○企業誘致について		
・可児市で新たに工業団地ができる。今後御嵩町において企業を誘致する際にどういう企業を誘致したら人口が増えたり、税収が増えたりという何か選定の基準や分析はあるか。	一般的に製造業などは多くの雇用も生み出されることから積極的に誘致を進めたいと考えておりますが、現時点で町内に新たに製造業の企業が進出できる用地は少ないことが課題です。他方、IT企業などの事業者は空き家等の既に町にある資源を活用する可能性が高く、次世代の新たな働き口の創出、行政・地域産業との新たなパートナーシップなどが期待できることから、誘致を進めるべき対象と考えております。	企画課
○名鉄について		
・名鉄の活用方法が下手。人を呼ぶ施策が必要ではないか。	名鉄広見線活性化協議会の事業を中心に取り組んでおりますが、乗客数がコロナ禍前の水準には戻り切っておりません。新たに立ち上げたファンクラブ事業等も含め、人を呼ぶ施策を考えてまいります。	企画課
○リニアについて		
・リニアが町内の地上で見えるところはないか。観光資源として活用はできないか。見学施設を作るとか。	町内のリニア本線の地上区間は美佐野地内に1カ所ありますが、防音防災フードが設置されるため、走行する車両を見学できる箇所はなく、直接の観光資源としての活用は難しい状況です。しかし、リニアは開通によって従来の移住・定住とは異なる新次元の地方分散、既存交通ネットワークとの連携や再構築によるアクセス圏内の拡大といった大きな変化をもたらすものと考えており、本町もリニア活用戦略に関わり、リニアを活用した施策を検討してまいります。	企画課
○ファンクラブについて		
・ファンクラブの予算はどれくらいか。登録者は既に5,6,000人くらいはいると思っていた。イメージ的には少ないように思う。	令和6年度の予算額は13,582千円です。11月末現在の会員数は854人で、令和6年度中に会員数1,000人を目標としております。県内先行事例では、現在は会員数10,000人以上となっておりますが、平成28年度の開始当初の会員数は199人であったとのことですので、開始2ヶ月の実績としては堅調であると認識しております。	まちづくり課
・八百津のハヤブサ消防団がテレビ化しているが、ファンクラブを活用して何か御嵩しかないというものはできないか。	御嵩町にしかないものが何か、御嵩町にあって他にないものは何かを突き詰めて、御嵩町といえば「これ」と誰もが言える「もの」「こと」を地域全体で共有し、ブランド化することが必要と考えます。例えば、上之郷中学校と地域で作る「触五山茶」は対象になりうるものと考えております。	まちづくり課
○回覧について		
・毎月2回の回覧が多く、見ずに捨てる時もある。アンケートか何かで希望を聞くことはできないか。	令和2年に自治会長に行ったアンケートでは、回覧を月に1回にすると負担減になると回答した自治会長が35%だったのに対し、負担減にならないとの回答が21%、負担と思っていないが35%であり、現状のままが良いという意見が合計56%でしたので現状を維持しております。今後再度意見をお聞きし、月1回の回覧にして欲しいという要望が多いようでしたら変更も視野に入れて検討してまいります。	住民環境課
○ゴミ袋について		

意見	今後の対応、回答	担当課
<p>・ごみ袋が薄い。すぐ破れる。何とかならないか。</p>	<p>ごみ袋につきましては、可茂管内で厚さや引張強さに基準が定められております。特に、可燃ごみ袋は、焼却炉で速やかに破れ、ごみが広がり燃えやすくする必要があります。そのためそれを踏まえた厚みや材質としております。基準の範囲内でごみ袋の厚みや材質を破れにくいものに変更することも検討しておりますが、変更に伴うごみ袋作成費用の増加などの新たな問題も発生するため、直ぐに変更することは困難となりますのでご理解ください。</p>	<p>住民環境課</p>
<p>・ごみ袋を配布してもらったのは大変ありがたかったが、他市町村と比較して値段が高い。安くできないものか。</p>	<p>ごみ処理には多額の費用が掛かっており、その費用の一部をごみ袋料金（処理手数料）としてごみを出される方に負担していただいておりますが、このごみ袋料金を超える費用につきましては、町が負担をしています。そのため、ごみの排出量が増えるほど増加する町の負担軽減や、環境面からごみの排出抑制効果も期待する中での料金設定としております。また、御嵩町では、プラスチック容器等の専用袋を可燃ごみ袋に比して安価で提供することにより、町民の皆さまの負担軽減と環境負荷低減を図っておりますので、ご理解とご協力をお願いします。</p>	<p>住民環境課</p>
<p>○ワクチン補助について</p>		
<p>・御嵩町は带状疱疹ワクチンの補助金が制度化されていない。可児市、八百津町は補助が出る。なんとか制度化してほしい。</p>	<p>带状疱疹ワクチンは、予防接種法に基づき接種が勧められている「定期接種」に含まれない「任意接種」に区分されており、国の積極的な勧奨に該当しないものとなっております。国においてワクチンの安全性や副反応、持続効果、対象年齢、費用対効果などのデータ収集を行い、定期予防接種化の検証、評価が進められている状況であるため、御嵩町では引き続き定期予防接種化における国の動向を注視してまいります。</p>	<p>福祉子ども課</p>
<p>○統廃合について</p>		
<p>・今後10年先、小中学校を統合していく考えはあるか。</p>	<p>現時点で小中学校を統合していく考えはありません。しかしながら、施設面の維持管理も含めて、今後の小中学校のあり方について検討していく必要があると考えています。</p>	<p>学校教育課</p>
<p>○道路について</p>		
<p>・町道四十八杉ヶ崎線（主に井尻公民館から北尾石油までの区間）の交通量が多くなった。実質的に南北道路との優先関係がないことは確認しているが、重大な事故が起きる前に道路に埋める白色灯などの対応はできないか。</p>	<p>毎年各地区の交通安全施設設置要望書が、交通安全協会から提出されています。いただいたご要望すべてに対応できるわけではありませんが、警察と一緒に対策について協議いたしますので、地域の皆様で交通安全施設設置要望書の提出をご検討ください。</p>	<p>建設課 総務課</p>
<p>・道路の白線が消えかけて見えにくい箇所がたくさんある。なんとか更新してほしい。</p>	<p>区画線の更新を検討いたします。</p>	<p>建設課</p>
<p>○河川改修について</p>		
<p>・井尻川の工事をやってもらっているが何年かかっても終わらない。早期に解決できないものか。</p>	<p>河川の改修工事は、非出水期（11月～5月）に施工していることや各種調整等により時間を要しております。地域の皆様には引続きご協力をお願いいたします。</p>	<p>建設課</p>
<p>○農振除外について</p>		
<p>・住宅が増えないのは、農振除外の申請が年1回しかないのがネックになっているのでは。年4回など対応はできないか。</p>	<p>直近3年間の農業振興地域の農用地区域からの除外（農振除外）申請件数は、合計で3件となっております。また、農業振興地域の農用地については、過去に土地改良などの公共投資が行われてきた農地がほとんどであり、その除外はやむを得ない場合に限られます。現在は、食料安全保障の考えから、農地を確保し、適正に利用する必要性が高まっております。このため、農振除外の申請の受付頻度の変更は考えておりません。</p>	<p>農林課</p>